

第6次山ノ内町総合計画後期基本計画策定に係る住民説明会 顛末

開催日・出席者等

開催日時 令和7年10月20日（月） 18:30～20:10
場 所 すがかわふれあいセンター
参 加 者 5名

内 容

1. 総合計画の基本事項に関する意見交換

参加者	基本計画の策定にあたり、基準値（指標設定の基となる数値）は5年前の数値なのか。
事務局	基準値は令和6年（昨年度）の数値である。
参加者	前期5カ年計画に対する反省や検証はどのように行われたか。
事務局	前期計画については、総合計画審議会の委員と担当の係長を含め、検証を行った。検証結果に基づき、A（よくできた）やD（進まなかった）などの評価をつけ、素案に反映させている。
参加者	外国人観光客の増加目標は、単に増えれば良いのか疑問を感じる。日本人の減少客数と外国人客の増加必要性のデータをしっかりと示してほしい。目標数値の出し方がかなり危うい内容になっているのではないか。
事務局	これまでビッグデータを使うことがなかったため、完全なデータはなかったが、今後はDX推進によりビッグデータを活用し、数値的なものを出していく予定である。町内約230～250軒の宿泊施設から実数を集めているが、すべてからデータが出てこないのが実情である。志賀高原観光協会や組合に協力してもらい数字を算出している。最終的に、目標は施策を打った結果として出す必要がある。
参加者	オーバーツーリズムについて、白馬村などの事例を見ると、ここに予算を出していくと問題が発生するのではないか。オーバーツーリズム対策の記述が計画書に少ないのではないか。
事務局	山ノ内町の現状は、野沢温泉村や白馬村に比べ、深刻なオーバーツーリズムではないが、対策は始めている。
参加者	高齢化率が高い中で、地域生活の維持として、特に交通弱者の課題が切実な課題となっている。 車がない高齢者でも、病医院や施設へ行けるなど、生活を維持できる状況を是非作っ

	てほしい。
事務局	交通に関しては、全国的に運転手がいけないことが大きな問題であり、山ノ内町も県と連携して交通の再編を進めている。 町コミュニティバス、「楽ちんバス」と「チョイソコやまのうち」の主な利用者は、70代から90代の高齢者であり、当初はバス停からバス停までで良かったが、最近は、自宅玄関または病院玄関までの「ドア・トゥ・ドア」のニーズが非常に高くなっている。交通弱者の中でも「単純な交通弱者」と「介護が必要な交通弱者」があり、後者については制度として県の支援が必要だと話している。 ドア・トゥ・ドアの拡充には運転手不足の課題があり、すぐには難しい。介護予備軍（障害ではないが一人での外出困難な高齢者）向けの制度設計、75歳または80歳以上の方に限定してドア・トゥ・ドアを認めるなどの検討が必要である。
参加者	須賀川区でも、住民が運転手となり地域交通を担うことを検討している。地域でできることはやりたい。
事務局	実際に町内では、宇木区の皆さんが地域交通を運行している。町から年間最大30万円を宇木区に補助し、保険代と燃料代に充ててもらっている。利用料は距離に対してわずかである。 地域の運行形態は、道路運送法上の運送ではないため、自由度が高くドア・トゥ・ドアも可能だが、車両の購入や修理代を賄うのが難しいという課題がある。 自家用有償旅客運送制度（道路運送法の許可）を使えば、車両購入費に対して国や県の補助金が出やすくなる。その場合、様々な利用条件が付く。 地域での運行形態をどうするか、まずは須賀川区で試験的に実施・検証しながら継続できる仕組みを探っていきたい。 地域住民のつながりや生きがいのためにも、地域の交通事業者を利用した、週に一度などの集団利用（お医者さんや買い物）に町が補助を出すことも提案したが、地域からは既存の運行形態が良いとの意見があった。
参加者	令和12年に完成予定の統合学校について、高齢者福祉との連携を考えているか。現在の計画は、高齢者福祉（第2章）と統合学校（第3章）が縦割りになっており、繋がっていない。
事務局	学校統合にあたり、コミュニティスクールに力を入れる予定である。学校の建物内に、子ども以外でも住民が集まって交流できるスペースを設ける構想がある。学校の建物内に、子ども以外でも住民が集まってお茶を飲んだり話したりできる場を設ける構想がある。
参加者	高齢者の生きがいや老人と子どもの接点、介護予防につながるコミュニティの場作りがあれば、介護保険料が値上がりするのを防げるのではないか。

事務局	役場は縦割りになりがちだが、横の連携を図りながら、健康寿命を延ばし、要介護状態にならない生活維持を目標として進めたい。 役場は、生活インフラを補うために、町コミュニティバスを利用してもらい、中野市のスーパーや病院へ行ってもらう形を取っている。
参加者	建物は、わざわざ行く場所ではなく「来てもいいよ」という開かれた場所であることが重要。小学生とおじいちゃんおばあちゃんが一緒に乗ってくるようなスクールバス構想も柔軟に考えられるのではないかな。
参加者	須賀川区は古くから野菜が美味しく、健康・有機・自然農業に特化した野菜作りの「モデル地区」としてブランディングし、移住定住に繋げるべき。現状、基本計画にはその重要性が十分に記載されていない。
事務局	基本計画は、皆さんがやろうとしていることを邪魔しないよう、全体を包括的に「ふわっとした」記述にとどめている。具体的な施策は、総合戦略・実施計画の中に盛り込む。 須賀川野菜のような有機野菜や健康志向へのトレンドは高まっており、ミシュランに載ったカレー屋なども関心を寄せている。町としてもやるべきことだと考えている。これは民が主導し、町が下支えする事業だと考える。 リンゴやブドウといった主要な農産物はすでに販路が決まっており、町がPR しづらい現状がある。須賀川野菜のようなコンテンツがあれば、販路としてPR に協力したい。具体的な資源や利用方法について相談があれば支援したい。
参加者	獣害対策についての指標では、熊対策で「人身被害ゼロ」を目標として、より具体的な対策（威嚇発砲、放置されている柿の木や空き家の伐採）や、数値目標（目撃件数を半減など）を掲げるべき。
事務局	現在、職員はメンタルを壊すほど真剣に対応している。人身被害ゼロは当然の目標である。猟友会の方々の協力を得て、春から11月まで毎日パトロールを実施している。目撃情報があれば、職員か猟友会が見に行き、土地所有者の許可を得て檻を仕掛けるなどの対応をしている。 熊は増えていると聞いており、昔は捕獲後逃がしていたが、美味しい味を覚えるとすぐに里に戻ってくる。
参加者	目撃情報について、Google マップなどでポイントをつけて情報公開するなど、データの可視化と共有を進めてほしい。
事務局	以前、通報情報がデータ化されるソフトを導入しようとしたが、情報が集まらず機能しなかった経緯がある。今後は、職員の努力を共有し、住民の協力を得られるよう、情報発信のあり方などを改善したい。
参加者	他の地域ではナラ枯れの被害がひどいようだが、山ノ内町の対策状況はどうか。
事務局	山ノ内町ではまだひどい状況ではないが、気候変動の影響は今後考えられる。